

安全協議会だより

2007年2月1日発行 VOL. 2

関東児童・生徒安全推進連絡協議会
事務局：利根電波システム㈱内
〒373-0037群馬県太田市新道町1235-1
Tel:0276-32-2335 FAX:0276-32-0781

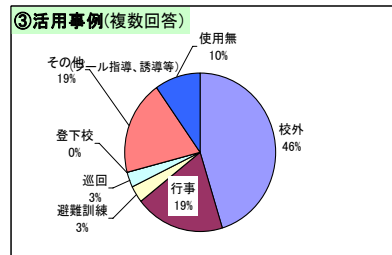
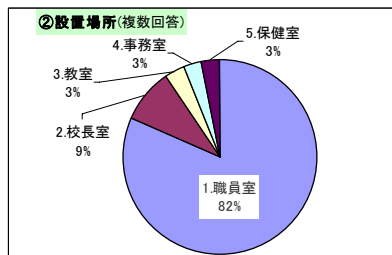
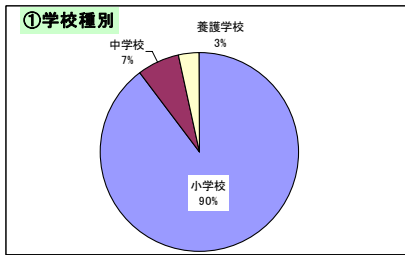
このニュースレターは関東児童・生徒安全推進連絡協議会より会員の皆さまへの情報発信を目的に発行しております。

無線機試験運用開始から1年～活躍の場ますます広がる～

平成17年秋に、群馬県太田市、栃木県足利市の小・中・養護学校、県立養護学校で、校内連絡用として業務用無線機が試験的に導入され、1年あまり経ちました。導入当初から、学校内外の行事において「大活躍」してきましたが、活躍の場は日々広がりをみせています。

(第2回アンケート:2006年11～12月実施)

* アンケート回答数 : 29校



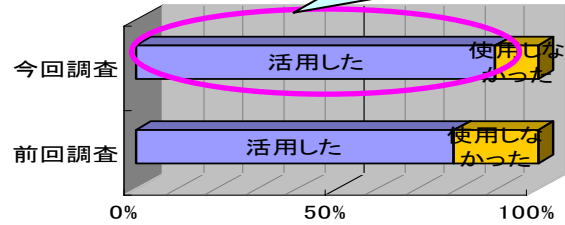
利用者の層は広がりましたか?



約2割の学校で「利用者層が拡大」し、「保護者も利用するようになった」

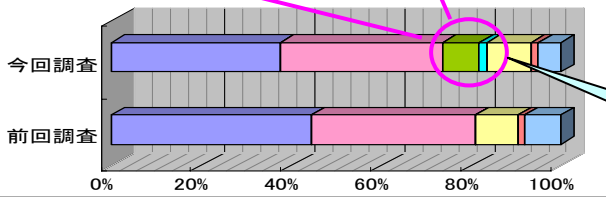
活用した学校の割合増加

活用した学校の割合



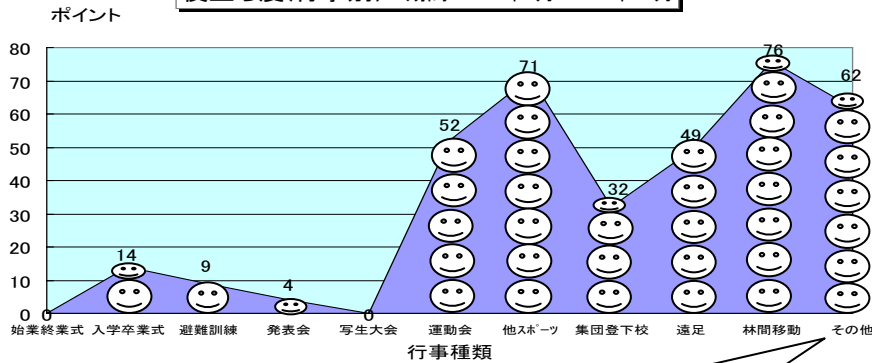
利用者層

- 教員(男性)
- 教員(女性)
- 保護者
- 児童生徒
- 用務員
- その他
- 回答無



利用者層の拡大

役立ち度(行事別) 期間:2006年4月-2006年12月



その他:プール指導、就学時健康診断、駐車場誘導、子どもの探索等

▲それぞれの行事において、「とても役立った」から「役立たなかった」までを5点～0点とし、各得点の回答件数をかけて、評価点数の合計を出し、グラフにしています。

〔考察〕

◆モニター期間が4月から12月だったことから、前回に比べ運動会やスポーツ関係の行事で活用した例が目立ちました。危機管理のために水泳指導で使用する例もありました。

◆利用開始から1年以上になり、教職員だけでなく、保護者等に利用が拡大してきました。

◆別途行った導入希望調査では、「強く導入を希望する」学校の希望台数平均が3.8台、「あれば活用したい」学校の平均が2.8台という結果でした。

◆足利市教育委員会で保有の無線機の貸出しを行ったところ、8月から12月の間に、小学校・・・7件、中学校・・・3件の貸出し希望がありました。平均貸出し台数は4.8台。行事で有効に使用されています。

活用事例

情報の共有による集積頭脳

ある日、子供同士のトラブルから一人の子が教室を飛び出してしまった。担任が教室の周囲を探したがいない。他の児童の学習に支障が生じてくると判断したのだろう、職員室に応援の依頼をしてきた。

常日頃、全職員とも危機意識は持っている。すわっ！ 探せ！ 職員室に居合わせた職員に探す場所の分担を指示し、学校内外の搜索にかかった。勿論6台有る無線機を携帯して、6台は職員室に残し、5名が各1台ずつ持って…。

職員室で待つ私に、職員から次々と連絡が入ってきた。

「こちら〇〇、〇〇方面は見当たりません」

「こちら〇〇、休憩している業者の人に尋ねたら『さっき男の子があっちへ駆けて行った』とのことなので、きっと自宅に戻ったと思う。

「そっちへ向かいます」

「子どもの家に来ましたが、人の気配はなく、チャイムを鳴らしても応答はありません」

本部と各職員とのやり取りは、リアルタイムで他の職員も聞くことができる。まさに瞬時の情報の共有である。6人の頭脳が集積することによって新たな手立てが浮かんでくる。

「こちら〇〇、〇〇は隣町のサッカーに通っているのです、そちらに向かっていることも考えられます」

「こちら本部、今聞こえたと思いますが、車で探している〇〇は、〇〇方面を探してください」
……担任からの連絡で家に帰った保護者から電話が入った。

「申し訳ありませんでした。〇〇は家に居ました。今から学校へ連れて行きます」

「こちら本部、〇〇は家に居ました。無事です。全員引き上げてください」

このような顛末の危機管理の一場面だった。

今までも宿泊学習や修学旅行等でとても便利をしてきたが、今回「**瞬時の通話及び情報の共有化**」による「**点から面へ広がり、時間の効率化、頭脳の集積**」が図れ、無線機の素晴らしさを改めて実感した。仮にもしこれが、携帯電話だったらどうだったろうか。



◇足利市立小学校

他の学校ではこんな使い方も見られました。

◇授業参観時の駐車場係が、保護者の車を駐車場と校庭に振り分けるのに使いました。とても役に立ちました。
〈太田市立小学校〉

◇公開授業で、駐車場が2箇所あるため、職員同士が車の誘導をするのに満車になったかどうかを確認したりするのに役立った。
〈太田市立小学校〉

◇入学式等の車の誘導、林間学校の際の連絡に、またプール指導で職員室との連絡用に使いました。
〈太田市立小学校〉

◇体育授業のプールの時間、職員室とプールにおいて非常事態に備えた。
〈足利市立中学校〉

◇就学时健康診断において、控え場所と検査場所の連絡に使用し、時間の無駄なく進行できた。
〈太田市立小学校〉

このような、実践的な活用事例をこれからも紹介していきたいと考えています。

活用事例

「緊急時にトランシーバーを持つ習慣ができた」

・平成18年12月6日(水) AM7:50
卓球部の練習で校外(壁際)をランニング中1年生女子が倒れた。2名の先生がトランシーバーを持って現場へ。救急車のサイレンが聞こえたので校長は学校の入口へ向かい救急車を誘導し、生徒は日赤に搬送された。トランシーバーを導入して2年、先生方も緊急時にトランシーバーを持って出るといった習慣がついてきた。
〈足利市立中学校〉



・小規模校(単学級)でプール学習のときは特に手薄になるので、何か起こった場合に、インターホンだとプールサイドを離れなくてはならないので、無線機を職員室とプールサイドに置いて素早い対応が取れるようにした。結果として事故・ケガはなかったが、安心してプール学習を進めることができた。
〈太田市立小学校〉

・低学年を中心に週4回(月火木金)、職員が7方面に分かれて集団下校の指導をしており、その際担任が携帯し学校と連絡を取り合っている。いざというときの応援が期待でき、安心して下校指導ができる良さがある。
〈足利市立小学校〉

「安心して行事が進められます」

・林間学校での山歩きやナイトハイキング(夜間)の際、先頭と後尾が状況連絡等をするために使用した。山中で携帯電話が使用できないエリアだったので有効であった。
〈太田市立小学校〉



学校内外の行事では
欠かせません。

◇運動会で、召集係と進行係で連絡を取り合った。必需品といえる。
〈太田市立小学校〉

◇運動会において、入退場の指示、放送係との連絡に有効であった。林間学校において、ウォークラリー等の連絡に役立った。
〈太田市立小学校〉

◇持久走大会に向けての安全確保及び緊急連絡(校外と職員室)。全学年、練習時には必ず緊急時のホイッスルとして活用する。
〈太田市立小学校〉

◇運動会での出発、放送、用具係等の連絡に各担当が用いたことで進行が非常にスムーズになった。また運動会開催中の校内パトロールに保護者が用いた。パトロール場所が明確になったため互いに助かった。
〈太田市立小学校〉



◇他校から4台借りて計8台を使って、林間学校のウォークラリーで使用。生徒の体調不良、到着時間、出発時間を全員に連絡できて非常に役立った。
〈足利市立中学校〉

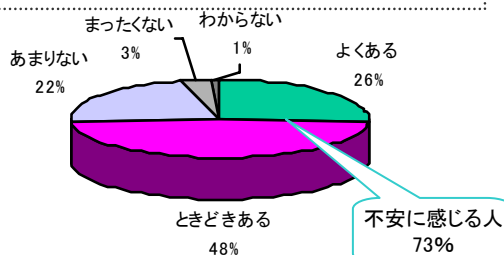
◇生徒の体調不良・発作等、緊急時の連絡体制が絶対に必要。他にも校外学習の機会が多く、トランシーバーの活用は頻繁である。
〈太田市立養護学校〉

◇今年度は駅伝(市の大会・県大会)で大いに役立った。女性の先生や応援を依頼した保護者も使用し、利用者がその有効性に気づいてきた。
〈足利市立中学校〉

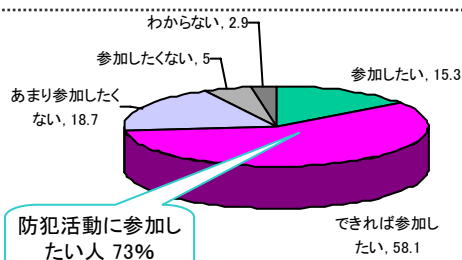
地域のカやコミュニティのつながりが弱くなったといわれていますが、子どもたちを守っていくためには地域の人々との協力が不可欠なのも事実です。下に、内閣府が今昨年調査した「子どもの防犯に関する意識」調査結果をご紹介します。これによれば、人々の関心はまんざらでもなさそうです。また、日本の通学イメージにはなかった「スクールバス」導入の試みも始まっています。安全を守るしくみや機会をどのように作って、地域や社会の力を集めていけるかが、これからの防犯の取組みに大切であるといえるのではないのでしょうか。

子どもの防犯に関する意識は？

身近にいる子ども達が犯罪に巻き込まれるかもしれないという不安を感じることがありますか？



防犯パトロールや防犯教室など、地域の防犯活動への参加をしたいと思いますか？



登下校の安全対策は今...

合衆国では、黄色いスクールバスはおなじみ。

欧米では、子どもを一人で歩いていかせるということはほとんどなく、親が送り迎えするか、スクールバスがあたりまえになっています。

スクールバスが停車して子供を降ろすときには「STOP」という標識を出すのですが、これが出ている間は、後続の車も対向車も停止し、子どもが降りてバスが発車するまで待っていないといけません。スクールバスが最優先なのです。また、学校周辺は時間帯によっては、時速15マイル制限(時速24キロメートル)となります。それだけ事故も多いということなのかもしれませんが、安全対策も徹底していますね。

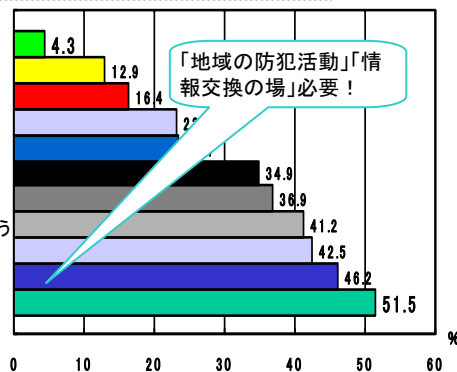
編集後記

群馬県太田市、栃木県足利市の教育委員会をはじめ、小/中・養護学校関係者のご協力を頂きながら当協議会も発足より2年目を迎えました。学校行事の円滑な運営や安全管理を目的とした無線機試験運用も1年を越え、当初の教職員の皆様イベント時のみに利用されていたものが、日常の連絡用として、また、保護者の方々への利用層の拡がりが見られ、「あればいい」から「必需品」となったというご意見も多数頂戴し、無線の利便性を実感いただけてきたものと感じております。

この「安全協議会だより」第2号も、特に行事が集中する時期のご利用事例の一部や児童・生徒の安全に関わる事例等も紹介させていただいておりますので皆様のご参考になれば幸いです。また、これが会員様の情報交換や学校を取り巻く環境の安全に対する一助となることを切に願っております。

子どもを犯罪から守るために効果的と思う地域や家庭の取組みは何ですか？(複数回答)

その他(無、不明含む)
 子どもを送迎すること
 防犯カメラの設置
 学校と頻りに連絡をとる
 子どもにGPS機能つき携帯を持たせる
 報道や防犯記事など情報で意識を高める
 「ども110番の家」の場所を確認する
 近所で不審なことがないか子どもと話し合う
 子どもに防犯グッズを持たせる
 近所の人たちと情報交換の場を作る
 防犯パトロールなど地域の防犯活動



(2006年8月内閣府広報室公表「子どもの防犯に関する特別世論調査」より抜粋。調査対象: 全国20歳以上3,000人。有効回答数: 1,834人。調査期間: 平成18年6月22日-7月2日)

日本でもスクールバスを登下校に運行することが検討されています

登下校時に通学路で子どもが事件に巻き込まれるケースが相次いだことを受け、文部科学省は昨年8月、路線バスや自治体、企業の所有する車両を送迎用のスクールバスとして活用する試みを、来年度から全国のモデル地域で実施する方針を固めました。

地域社会の協力で実際に運行、通学路の安全確保のために必要な人員、車両数などのコストや運用上の問題点などを調べるのが目的で、スクールバスが普及している欧米社会の実践例も調査。来年度予算の概算要求に、関係費用を盛り込むそうです。

児童数や通学距離など学校、地域ごとの特性が異なる複数のケースで行い、問題点などを検証します。

(西日本新聞 <http://www.nishinippon.co.jp> より)